7研修第5号　（令和7年7月）
発行：宇治市乳幼児教育・保育支援センター
アドレス：nyuyojicenter@city.uji.kyoto.jp

令和７年度　乳幼児教育・保育協働研修通信

テーマ
「不登校」

令和７年７月４日(金)
第５回研修会(発達・子育ち支援分野)を開催しました。

20 名の先生方と一緒に学び合いました。
（保育所(園)4 名・幼稚園 3 名・認定こども園 6 名・小学校 4 名・療育施設 3 名）

※ この研修通信は、園内の体制等でご参加いただけなかった皆さまにも研修会での学びの一端が伝わることを願って、研修会終了後の参加者による『振り返りシート』をもとにまとめたものです。

1. 報　告

「宇治市の不登校の現状と対策について」
講　師
宇治市教育総合推進センター
教育支援課
指導主事　布川　久美子　先生

報告の中で、心に残ったこと
(参加できなかった仲間に知らせたいこと)

学校復帰という結果のみを目標にするのではなく、社会的に自立することを支援する。

不登校になる子の傾向として、自己肯定感が低い子が多い。

不登校は早期に発見して、園だけでなく連携しながら支援することが大切

コロナ禍から不登校が急増している。

保護者や本人との信頼関係の構築やカウンセリングが大切

不登校の要因は様々、無気力等の課題、言葉にならない部分があるのだということ。その部分へのアプローチや心を育むことが、今幼児期の子どもたちと関わる中で大切

2. グループワーク
テーマ 「各園(校)の実態から、乳幼児期にできることを考える」

A グループ

- 早期の他機関連携
- 自己肯定感を高める。

B グループ

- 友達の存在(一緒に頑張っていけるような)
- 信頼できる大人の存在

C グループ

- 保幼こ小連携
- 入学後、生活が変わり過ぎないように、先ずは、遊びの時間→名前を覚えて友達関係が作れる、学習を始めるのがスムーズになる。

D グループ

- “嫌だけど頑張る力”も大事にしたい(集団の中で、楽しく安心できる大人と共に乗り越えていけるとよい)
- 個々の対応も大切
- 保護者との連携も大切

E グループ

- 保護者との連携、関わりが大切
- 感情がコントロールできない子について、どう向き合っていくかは、乳幼児期が大切
- 頼れる大人づくり
- 一人ひとりを見て、ほめる・認める。

3.講　演

演　題「不登校の実態から
　　～乳幼児期にできること～」
講　師　京都府立城陽支援学校
　　教諭　植　えり　先生
(地域支援センター「サポート JOYO」
地域支援コーディネーター)

講演の中で、心に残ったこと
(参加できなかった仲間に知らせたいこと)

早期発見・早期対応

○ 改善する可能性が高い。

まとまって休もう

○ 焦って不登校の子に「明日は行けそう？」と何度も尋ねることで、辛い時期を引き延ばしてしまうこと
○ 思い切って１ヶ月くらい休むことや、その間学校の話はしない方がよいということ
○ 最初の「行きたくないな…」の時点で１ヶ月休んでみようという勇気。保護者にしたら大きなハードルだと思うが、そこが前に進む１歩だと知れた。
○ 行ったり行かなかったりを繰り返さない。

保護者

○ 保護者へのアプローチ（子どもと一緒に育てる）の大切さ
○ 保護者の生活リズムに子どもを合わせない。睡眠が大切

トラウマ

○ 就学前施設で、苦手な物を食べることを強要されて気分が悪くなったことが小学校まで影響した。

発達障害

○ 発達障害が隠れていることは多い。(発達障害だから皆が不登校になるわけではない)

保育や授業で活かしたいこと

保護者との連携や、気持ちが子どもに向く声かけ、啓発の仕方

まとまった休みを取っても大丈夫であることを伝え、安心して過ごしていただきながら支援につなげていきたい。

友だちとのつながり、自信を持てるような取組、声かけをしていきたい。

幼少期からの自己肯定感の向上や保護者支援、他機関との早期連携をしっかり続けていきたい。

困っている、できないお母さんの話を聞いたり寄り添っていきたい。

保護者が安心して相談できる関係づくり。

こうしたら大丈夫の体験を重ねる。

保護者との関係づくりの大切さ

保護者への生活リズムについてのアプローチ

子どもたちの特性へのアプローチを日頃の療育の中でしていく。その中で子どもたちを認め、心を育むことを大切にしていきたいと改めて感じた。

保護者との連携、子ども（親）の情報交換

保育園に行きたいと思ってもらえるように子どもとの信頼関係を大切にしていきたい。

保護者や他機関と連携を取って全体でサポートしていきたい。

行き渋りの子がいた時、丁寧に話しを聞ける職員集団になり、子どもの気持ちに寄り添える大人になっておきたい。

教育支援計画も作っていく必要があると思った。

子どもたちの特性へのアプローチを日頃の療育の中でしていく。その中で子どもたちを認め、心を育むことを大切にしていきたいと改めて感じた。

より子どもたち１人ひとりの特性を理解し、見守り関わることや自己発揮できる場を作ることを心がけていきたい。

子どもだけではなく、関係性を築く中で親指導や親を認めてあげることが総じて課題解決につながっていくこと。

※不登校７段階。教員による認識・チェックに活かしたい。

※不登校７段階：講演の中で、「NPO 法人コミュニティ総合カウンセリング協会　引用」として紹介されました。